

神奈川県作業療法士会ニュース152号 目次

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 巻頭言 | 9 第1回神奈川県臨床作業療法大会のお知らせ |
| 2 「こんな人たちに会ってきた」ユニバーサルデザイン | 10 理事会報告 (9月15日分) |
| 4 ひよこ通信 | 11 各部からの報告 |
| 5 ひよこ通信番外編 | 12 求人広告・講習会案内 |
| 6 OTのためのIT講座 | 13 企業広告 |
| 8 地域リハ部のページ | 14 青年海外協力隊通信 (第5回) |

巻頭言

～新理事紹介～

社会保障制度委員会理事 国際医療福祉大学小田原保健医療学部 三浦慈子



今年度より理事を務めさせていただくことになりました国際医療福祉大学小田原保健医療学部で教員をしています三浦といいます。新米理事ではありますが、会員の皆様が神奈川で仕事に打ち込めるように、また神奈川県作業療法士会の発展に力を尽くしたいと思っています。

理事として私は社会保障制度委員会に携わることになりました。社会保障制度というと厚労省が関わり、よく判り難いものと敬遠したくなりますが(個人的な意見ですが)、医療保険や介護保険また自立支援法など作業療法業務には必要な制度があります。これら制度の内容を知っていることで、対象者の方により良い援助ができる場合もあります。社会保障制度委員会として新しい情報をウェブに掲載していくこと、また今後は社会保障制度についての講習会なども開催して行きたいと考えています。そこで会員の皆様には是非「この制度について知りたい」「制度に書いてあるこの文章を判り易く教えて」など、知りたいこと、わからないことを何でも構いませんので三浦までご連絡下さい。「こんな質問恥ずかしい」と思う方もいるかもしれませんが、ですがよく私が学生に言う言葉に「自分だけが知らない(判らない)ということはない。大体みんな知らない(判らない)ことが多いから、質問するとみんなも喜ぶよ」があります。誰かが疑問に思うことは大抵みんな疑問に思うことが多いと思っています。ですので色々な質問・ご意見をお待ちしています。

学生の話を出したので、もう少し学生の話をしたいと思います。私は当学部の開学から勤務をしています。その前は東京で病院勤務をしていました。病院勤務時代、色々な学校から実習を受け、学生指

導をしながらいつも考えていたのは「学生だから知らないことがたくさんあるのは当たり前、自分の学生時代を思い出せ」です。ですが教員になり1年生を担当して改めて思いました「本当に何も知らない」ということを。1ヶ月前まで高校生でしたから医学的・専門的な知識が無いのは当然ですが、本当になにも知らないのです。その時思ったのが「この子たちが後1年か2年で実習レベルまで到達するのだろうか」です。病院勤務時代に担当した学生たちをすごいとも思いました。個人差はありますがそんな1年生も学年を終わにつれ知識を得ることができました。さらに人間性・社会性も実習の度に大きく成長して帰ってきます。そして昨年初めて卒業生を出しました。今年卒業生何人かと会うことができましたが、わずか1年で社会人として立派に成長していました。また同じ作業療法士としていろんな意見を交わすこともできました。わずか数年で人間を大きく成長させる臨床の現場というのはすごいと思っています。たぶん援助を必要としている対象者と相対したとき生半可な対応ではいけないこと、自分にできる最大限の援助をしなければならないこと、対象者に良い援助を行うには自己を高める努力しなければならないことなどを学ぶのではないのでしょうか? 学生を通じて改めて現場のすばらしさを認識しています。

社会保障制度を活用することも対象者への最大限の援助に繋がると考えています。学校業務になり対象者への援助から少し離れてしまいましたが、制度について皆様に報告することで少しでも対象者の方と関わっていききたいと思っています。よろしくお願いします。

E-mail yomiura@iuhw.ac.jp



前号に引き続き、「ユニバーサルファッション」について取り上げてみたいと思います。

今回は、NPO法人ユニバーサルファッション協会（UNIFA）所属の替地あや子さんと伊豆野 隆信さんにお話を伺ってきました。

Q. ユニバーサルデザインとはどういうものなのですか？

国際ユニヴァーサルデザイン協議会（IAUD）によれば、ユニバーサルデザイン（以下UD）とは「できる限り多くの人に利用可能なように意図して、機器や建築、身の回りの生活空間などをデザインすること」を言います。協議会では研究部会として住空間、移動空間、労働環境、余暇のUD、衣のUD、食のUD、メディアのUDなど8つのプロジェクトチーム及びワーキンググループを立ち上げています。2010年度の活動報告会では、例えば移動空間プロジェクトでは、より分かりやすく「予測」しやすい

情報案内として、「擬似3D地図」を研究課題とし、余暇のUDプロジェクトでは「テレビCM点字」の導入実施について活動しています。衣のUDプロジェクトでは、「おしゃれで機能性の高いUDジャケット」の実現化を目指した取り組みがなされています。

Q. ユニバーサルデザインのジャケットとは？

以前はUDのもの＝使いやすいもの、と捉えられていましたが、そこから「楽しみ」や「動機付け」になるものを作っていきたいと考えがシフトし、現在は「人々に何らかのアクションを起させるようなデザインを作ってゆきたい」と考えています。今回は「その機能は美しいか」をコンセプトとして、着脱の容易さ、着心地に着目したおしゃれなスポーツカジュアルジャケットの制作を2009年よりIAUD参加企業やファッション業界、UDファッションに取り組む専門大学やファッション系大学等といった産学協同で行ってきました。ただ着やすいだけでなく、着ることで外出したくなるようなデザイン性の高いものを作ろうと努力しました。

このジャケット（写真2）のポイントは、生地伸縮性（4方向）、ファスナーの位置（両サイド）、ファスナー留め具（スナップ式：商品名、スナップトラック）、脇下の切り替え（立体マチによりアームホールの自由度を高める）です。この脇下の切り替えパターンは5年ほど前に産技研とUNIFAの商品研究会が京都で開催されたIAUDの学会で発表した技法で、これを取り入れたポロシャツが2010年までスポーツウエアのデサント（DESCENTE）で販売されていました。（写真3。写真4は通常のポロシャツ）

ジャケット制作後、いくつかの病院、施設の利用者様を対象にジャケット試着のアンケートを実施しました。そこで得られた結果は、評価ポイントとして「袖下が伸びるので腕が通しやすい」「生地に伸



写真1 今回お話を伺った、替地さん（左）と伊豆野さん（右）



写真2 ユニバーサルデザインジャケット



写真3 脇下に縫い目がないポロシャツ



写真4 普通のポロシャツ

縮性があり軽くて動きやすい」「肌触りがいい」などの意見があがりました。要望ポイントとして「止め具の位置」「ファスナーが慣れていないため使いづらい」などでした。スナップ式ファスナー（写真5）はファスナーを合わせる下部がスナップボタンの様に凹凸になっており、片手でもパチッと留まり、ファスナーを上げやすい構造になっています。

写真5 スナップ式のファスナー留め具
（スナップトラック：商品の部分写真）

動きやすさ、生地、着心地に関しては評価が高かったのですが、ファスナーの操作性に関しては満足度は低くなりました。着脱試験では袖から脇にかけて縫い目のない一枚布な為、肩周りの動きに制限がある方でも、比較的負担なく腕を通せると評価いただいています。

今後の目標はUDジャケットの商品化であり、競輪選手など自転車競技のウエアとして使ってもらいたいです。また、パラリンピックに出ている方々にも着てもらいたいですね。

Q. 「ユニバーサルファッション」と「バリアフリーファッション」の違いは？

UNIFA副理事の鈴木淳氏によれば、「ユニバーサルデザインとは年齢・体格・人種・障害などに関わらず、誰もが自分の力で自由に好きな事が出来るような社会環境を創ろうとする思想」とあり、ユニバーサルファッションが目指すものは、「障害者向けの専用服や高齢者用という特別服、つまりバリアフリーファッションを作らなくても、彼らが好きな服を自由に選べる社会を作ろう」ということです。

しかし実際はその他のUDプロジェクトと違い、ファッションに関しては個々人で好みが異なるため、商品開発も難しいです。どんな人でも着られる究極の1着を目指すのではなく、ファッションは自己表現方法のひとつでもあるため、多くの選択肢が望まれます。また、使う側にとって衣を受身で捉えるのではなく、着用していることで、自分で何かしたくなるような、そんな服を作ってゆきたいと考えています。ただ、個別性に重きを置けばそれだけ量産が難しくなるため、価格が上がってしまうのが難点です。

しかし、衣が人に与える影響は大きいと実感しています。またファッションは楽しむものです。これからはファッションの可能性を広げてゆきたいです。

2号続けてUDについて取材しました。記者自身の経験として、若いころはおしゃれ重視で寒いのを我慢してでも着たい服を着ていましたが、最近はそれよりも体を冷やさないことを優先し、おしゃれ服よりも実用性のある服を選ぶようになりました。しかし、実用性重視だと面白味に欠けてしまいます。着ている服一つでその時の気分が変わったり、周囲からの印象が違ったりします。どんな人でももっと簡単に自己表出ができるよう、機能性重視のみでもファッション性重視のみでもない、両者がうまく融合したデザインが多く普及されればよいなと思いました。

・参考資料：IAUD Newsletter Vol.9 2010.12
（文責：菊地）



♪ 親離れ二歩目 ♪

先日、子供が保育園のお泊り保育に参加してきました。私の周りでは子供だけ実家にお泊りという話を聞きますが、我が家では一切ありませんでした。私が比較的実家の近くに住んでいたこと、母が長時間の子守りを好まないことなどが理由ですが、息子も一人で泊まりたいとは一度も言ったことがありませんでした。そんな子がお泊り保育を無事に終えられるのか？保育園に通い始めた時が親離れ第一歩とすると、お泊り保育は親離れ二歩目といったところでしょうか…。保育園の先生にも「実は心配なんですよ〜。(笑)」と言われてしまい…。そんな周囲の心配をよそに当のご本人は「仲間が一緒だから大丈夫!!」と、仲間とのお泊りをとても楽しみにしていました。さて、お泊り保育当日、私は仕事をし、夕方からは地域リハの連絡会に出席、そのあと主人と夜の映画鑑賞といった産後以来なかった開放感を満喫しつつも、常に先生から緊急の電話がないかどうか携帯チェックしてソワソワしていました。さて、先生からの連絡もないまま朝を迎えてお迎えの場所に行くと、お友達と楽しそうにしている息子を見て一安心★。しかし、息子が私のことに気づいた瞬間、「ママ〜!!」と言って私に抱きつきオイオイと泣くではありませんか。私も先生もお友達もお迎えに来ていたママ達もびっくり!「今までずっと楽しくし



ていたのに〜。」と先生に言われました。どうやら、私の顔を見た瞬間、それまで一緒にいなかったことに気づいて急にさみしさが込み上げてきた様子。「まったくややこしい時間差がある子だなあ」と思いつつも「まだまだかわいいなあ」と愛しく思いました。10年後には確実に親離れしている息子を想像すると今こそ思い切りスキンシップをとっとかないと!と思いつつ、現実には息子のラブラブアタックにうんざりして冷たくあしらってしまう私です。ごめんね★。でも、おっきくなってもママの隣で仲良く歩いてね。「無理!」って言われるかしら?言われるでしょうね。(文責:大宮)

★★夏の思い出★★



今年の夏もとても暑かったですね(^^;)。暑いとつい”動きたくない”と思ってしまう私にはおかまいなしの子供達。日曜日になると、朝から「公園行こうよ〜」と決まり文句が始まります。外遊びをすればしっかりお昼寝をしてくれるし、自分の時間もあるから頑張ろうと私は重い腰を上げて公園に(^O^)/。子供達が汗だくになりながら走り回っていると、「ママ〜!見て!セミのお洋服」と長女が抜け殻を見つけました。先日抜け殻を見つけた時には、「怖いから触れない」と言っていた二人でしたが、いつの間にか公園中の木の下を一生懸命探し始めました。しばらくすると、砂場道具入れのバケツにはたくさんの抜け殻があり、「ママ、セミってすごいんだよ。人の服にくっつくんだよ」と、私の洋服に二人でくっつけ始めました。私は昆虫類が非常〜に苦手で、どうしようかと思いましたが苦手意識を前面に出すと子供達も騒ぎ始めるので、セミの抜け殻に触れるようになったことに感心しつつ、グッ(><)と堪え!ていました(笑)。

どうして触れるようになったの?と聞くと、「保育園の園庭にもいるんだよ、最初は怖かったけど自分の洋服にくっつくことを友達が教えてくれて、女の子も触ってるしね」と話してくれました。最近特に、同世代の影響って大きいなあと感じるようになりました。

そういえば、長女がまだ2歳の時の懇談会で、園長先生から「乳児さんは一番大変な時期よね、でも今だけよ!ママとパパにわがまま言って甘えるのは」(^^)。5.6歳になってしまうと友達と遊ぶ楽し

さがわかるから…」と話されていました。参加した親御さんの多くは「朝一番忙しい時間にぐずってしまう」、「余裕をもって準備したのに、子供が靴を履く際に少し手伝ったら怒って泣き始め、一からやり直してどうしていいかわからない…」と、日々の戸惑い等を涙ながらに話す方もいました。その時は、毎日別れ際に泣く長女にもそんな日がくるのかな？と思っていました。でも年長になるとちょっとした自信？なのか、家で書いた手紙を友達同士で交換したり、内緒話をしたり（^^）。親以外との関係も築き始め、少しずつ自立へ向かっていく姿を見かけるようになりました。これからも子ども達にはいろいろな経験をして、元気いっぱい大きくなってほしいと思います（^O^）。（文責：海出）

ひよこ通信 番外編

～パパの子育て通信～

まさか私がひよこ通信の執筆を行うことになるとは思っていませんでした。ひよこ通信デビューということで何を書いたら良いのやらと思いつつ男性として、OTとして半人前の育児で感じたことを書きたいと思います。

世の中は「イクメン」という言葉ができたおかげで、ママと同じような育児を男性がやることに抵抗なくなってきた気がします。現在2歳10ヶ月の男の子がいて、時間があるときには保育園の送迎をしています。当初、自転車の前乗せチャイルドシートに子供を乗けて走る姿はなんとも恥ずかしいと思ったりもしましたが、慣れると楽しいものです。帰り道に自転車こぎながら「今日は保育園で何して遊んだの？」なんて聞くと「（オモチャの）飛行機壊しちゃった？？」と会話がかみ合っているような、かみ合っていないような返答に笑ってしまうワケです。案外そんなやりとりを見ず知らずの人たちが微笑んでみているのを見ると（←勝手な妄想かも知れませんが…）快感にもなります。子供とのコミュニケーションが弾んでいる理想的な親子だと思われるに違いないと心の中でドヤ顔しています。

とはいえ、「魔の2歳児」という言葉はウソではありません。イヤイヤも絶好調。親の思い通りにはいかないことも多くあります。そんな時、いかに本人の意志でイヤなこともやらせようかを考えようとすると、OT的な思考回路にスイッチが入ります。物で吊るなんてこともありますが、自分がロールモデルとなって楽しそうな様子を見せて興味を引かせつつ一緒に行動するようにしています。また、子供が棚からお菓子を出して私にくれるのですが、それは暗にパパがお菓子を買って食べたら平等に自分も大好きなお菓子を貰えるという考えだったようです。やんわりと断り、貰わないようにしていました。でも素直に子供はお菓子をパパにあげて喜んでほしい。交換条件のような駆け引きができるとは賢いヤツだ。と自分自身が「認知の再構成」をして前

向きに捉えると成長を感じ、オーバーな表現ですが、大した子供だと思ったりしています。

OTとして患者さんに対して苦手な部分（短所）にばかりに目を向けるのではなく、良い部分（長所）を伸ばそうと考えたりしていても、自分の子供となるとそうもいかないものです。歩き始めるのが遅れた、オムツが外れない、指しゃぶりのクセが治らないといったことでふと発達が遅れているんじゃないかと過剰に疑いたくなるような時もあったりしました。職業病ですね。その子の個性であり何はともあれ元気が一番。子供と一緒に自分も成長していきたいと思っています。

（文責：千葉）



新米パパの子育て通信

今回はひよこ通信番外編、ということで男目線での育児やその経験をどう仕事に活かしているかをお話しできたらと思います。まずうちのちびちゃんは去年生まれてまだ1歳なのでまだまだ言葉もあまりしゃべらないし、よく泣くし、よくわからないこだわりがあったりと、どうやらうまくコミュニケーションをとれるか悩んでいます。おかげでだいぶ気長に待つことができたり、小さな変化に気づいてあげられたりできるようになってきました。そう、子育ても真剣にやれば親も成長して、さらに仕事にも活かすことができるんだなあ、と1年経過して感じることはできました。さらにこうやって子育てをして子供を育て上げてきた、または仕事に邁進してこられた患者さんのストーリーが少し理解できるようになったのかな、と感じます。しかし理解を深めるためにはまだまだ、もっと経験して少しでも患者さんに近づきたいと思う今日この頃です。

（文責：矢野）





OTのためのIT講座

第10回 Facebookを始めてみませんか？



講師
石川 敢也さん



松本 早いもので、この連載も今回で10回目を迎えることができました。ありがとうございます！



石川 いえいえ、無事に続けていられるのも松本さんたちのサポートと、読者の皆さんのおかげです。



松本 振り返ってみると、パワーポイントやGoogleの便利な使い方や、文字入力が速くなるショートカットキー、写真編集や震災情報サイトについて、スマートフォンのことなど、いろいろ教えてもらいました。



石川 OTとして活躍している皆さんは、もうWordやExcelの基本的な操作は分かっている人が多いようなので、GoogleやPowerPointの登場回数が多いですね。



松本 そうですね。パソコンは仕事で必要ですから、まったくのIT初心者でもないし、上級者ともいえない感じの人が多くいますね。そんな中で、毎回のテーマ選びにも気を使っているのが伝わってきますよ。



石川 今回のテーマは迷いませんでしたよ。最近は学会や研究会でも必要になってきたFacebookの使い方を取り上げてみようかと思っています。



松本 映画「ソーシャルネットワーク」も話題になりましたよね。私もやらなきゃと思ってんですけどね、なんだか面倒な感じがしちゃって未だ登録してないんですよ。実際のところmixiで間に合ってるってこともありますからね。

質問を募集しています！ ??????????????????

「OTのためのIT講座」で取り上げてほしい質問を募集しています。

下記のURLから投稿してください。

●「OTのためのIT講座」質問箱 <http://post.afinax.com/>

今回の記事で紹介したFacebookからの投稿も歓迎です！

<https://www.facebook.com/afinax>

記事の感想や要望などお気軽にお送り下されば幸いです。





Facebookを使ってみよう！

●Facebookってなに？

世界で7億人以上が参加している大きな交流サイトです。日本で普及しているmixiのようなものですが、実名で参加することが推奨されています。アドレスは <http://www.facebook.com/> です。

●Facebookで気をつけることを教えて！

Facebookは実名での参加が推奨されていて、それが大きな特徴になっています。実名だからこそ、仕事のこともインターネット上で安心して情報交換ができるのですが、Facebookで設定できる項目が多いこともあり、個人的なことを公開しすぎてしまう場合があります。

例えば「恋愛対象」などを記入する欄もありますが、そうした交流を望んでいない場合は回答せずに、空欄や非公開に設定してかまいません。住所や趣味、学歴や職歴なども必要がなければ空欄でかまわないのです。

また、実名で利用している人が大部分ですが、証明書の提出などは行われていません。怪しい利用者の削除などは運営側も行っているようですが、不正な利用者や不適切な営業行為などを完全に排除できているわけではありません。

投稿の公開範囲など、プライバシーに関することは細かく設定することができますので、自分の設定を必ず確認しておきましょう。初期設定のままでは全員に公開される項目が多くなっています。

プライバシーへの配慮という点で特に気をつけたいのは、「友達の友達」は自分ではコントロールできないということです。

Facebookに限らず、「友達の友達」という関係には、なんとなく安心感があります。しかし、ネット上の「友達」というのは、実際には会ったこともない、よく知らない人が含まれている場合があります。自分で理解していてコミュニケーションを楽しむ分には問題ありませんが、その人と関係のない別の自分の「友達」も、「友達の友達」として繋がってしまうことになります。逆にいえば、自分が予期しなくても繋がってしまうこともあるわけです。見ず知らずの人と「友達」になろうとするときは、ぜひ慎重に判断してください。



●なんだか使い難いんだけど…

Facebookには、ユーザーが相互に投稿を行える「ウォール」、友達の更新情報を教えてくれる「ニュースフィード」など、聞き慣れない用語がたくさん出てきます。

最初に目にするホームの画面が日本で普及しているサイトとは大きく異なりますし、新しい機能も頻繁に追加されますので、説明画面を開いて全部を理解してから始めようとなると、ハードルが高く感じられるかもしれません。

とりあえず登録して、親しいリアルな友人と繋がってみる、思いついたことをつぶやいてみる（近況アップデート）、公開してもいい写真を載せてみるなど、使いやすい機能から試して慣れていくのが良いと思います。

以上、簡単にFacebookの世界をご紹介しました。この他にも、Twitterとの連携やFacebookページについてなど、お伝えしたいことはたくさんありますが、きりがないので別の機会に譲ります。

では、慎重かつ大胆にFacebookを楽しんでみてください！

地域リハビリテーション部

地域リハの“わ・輪・和”プロデュース!!

すでにご覧になっている会員も多いかと思いますが、県士会ウェブサイト内に地域リハビリテーション部がプロデュースする総合コンテンツ「地域リハの“わ・輪・和”」を設置いたしました！当コンテンツでは以下の情報を掲載しております。

(1) 訪問作業療法・提供施設

県士会員を対象に所属施設における訪問サービス実施状況を2011年8月1日～31日まで調査いたしました。情報の公開を承諾いただいた施設のみ施設情報を掲載しています。

同時に入力フォームを設置いたしましたので、訪問を実施している施設の方は掲載のご協力をお願いいたします。

(2) 地域リハの泉

H21年度からスタートした地域リハ部の事業「障がい者団体の活動を知る」では、神奈川県内のさまざまな団体の活動を報告してきました。その記事を掲載いたします。

(3) 地域で困った時のリンク集

地域リハ部では、地域リハビリテーションの円滑な実施に役立つ「地域の社会資源」にはどのようなものがあるのかを調べてみました。

(4) 地域リハNEWS

地域リハ部の最新情報をお伝えするブログです。透明性のある地域リハ部の活動を目指していきます。

地域リハビリテーション部 9月～11月の活動報告

- ①訪問リハ実施施設情報をウェブサイトへ掲載
- ②認知症の方に対する作業療法アンケート調査実施
- ③HC（福祉機器展）でのパイロット事業報告
- ④「特別支援学校を中心としたタウンミーティング」の準備作業12月3日、3月10日
- ⑤「訪問リハ地域リーダーミーティング」の準備作業 2月5日(日)
- ⑥認知症の作業療法を普及するための取材活動（次回ニュースにて報告予定）

- ・「認知症の方に対する作業療法アンケート」ご協力ありがとうございました。結果はウェブサイトにて報告いたします。
- ・各種研修会をご案内しています（ウェブサイト要確認）。是非ご参加ください。
- ・来年度事業に関する意見収集をしております。ご要望は下記地域リハ部のアドレスまでメールでご連絡ください。

chiikireha@kana-ot.jp

（文責 地域リハビリテーション部 木村）



第1回 神奈川県臨床作業療法大会のお知らせ

第2報

「新しい学会」、始まります！！

—第1回神奈川県臨床作業療法大会 大会長にインタビュー—

来年の4月、症例報告を中心とした「新しい学会」第1回神奈川県臨床作業療法大会が開催されます。前号の県士会ニュースでは学会の概要を告知致しましたが、皆さんご覧になっていただけたでしょうか？

今回は、学会の大会長を務める 鴻井 建三 先生に、学会の開催についてインタビューを行います。

—「新しい学会」について教えてください。

鴻井 はい。新しい学会ですが、正式名称は「神奈川県臨床作業療法大会」です。日時は平成24年4月15日の日曜日、会場は、神奈川県立保健福祉大学 講堂に決定致しました。

—「新しい学会」設立の目的はなんですか？

鴻井 神奈川県士会は会員数2000人の大きな会ですが、県士会の主催する学会は2年に1回と少なく、会員が研究・発表をする場は限られています。そこで、県学会が行われない年に新しい学会を設けることで、より多くの会員が発表できる場を提供する目的で、本学会を設立しました。

—県士会員にとっては、普段の臨床を研究・発表する絶好の機会ですね。

今回の学会ですが、どのような特徴があるのでしょうか？

鴻井 本学会の特徴として、症例報告のみの学会であることが挙げられます。また、予算を抑え準備を簡略化するために、1日1ホール開催となっています。

—そうですか。1ホール開催であれば、2つの発表が重複してどちらかが聞けない、ということもないですね。

それでは、大会長を務める、鴻井先生のご略歴を教えてくださいませんか。

鴻井 私は一般の大学を卒業後、出版社に勤務致しました。その後、国立療養所箱根病院附属リハビリテーション学院を経て、作業療法士として横浜市に入庁致しました。現在務める横浜市立大学附属市民総合医療センター中心に、23年間臨床勤務を継続しております。

—ありがとうございます。

学会実行委員はどのようなスタッフで構成されていますか？

鴻井 実行委員スタッフは横浜市立大学附属市民総合医療センターの職員を中心に、大会長を含め8人で構成されています。

—鴻井先生が今回、大会長を受けた理由をお聞かせください。

鴻井 はい。私は日々の臨床を行う中で、作業療法の臨床研究の必要性を感じています。今回、大会長の役を受けた背景には、県士会の中堅として、症例報告を中心とした学会を企画し、作業療法の発展に貢献したいという思いがあります。

—先生の話から、作業療法の発展のため多くの県士会員が臨床研究に携わる必要を、私も感じました。

症例報告の具体的な募集方法はどのようになっていますか？

鴻井 前回の県士会ニュースに掲載された「企画書フォーム」を参考に、企画書を投稿してください。企画書は12月1日から25日まで、Eメールでの投稿となります。抄録とは違い、企画書の形式は大変シンプルですので、まずは気軽に投稿してみてください。お待ちしております。

—企画書での投稿であれば、演題登録も非常にしやすいですね！

その他、学会に関する情報を簡単に知る方法はあるのでしょうか？

鴻井 実行委員が、日々の情報を随時、ブログに更新しております。「第1回神奈川県臨床作業療法大会ブログ」で検索してみてください（笑）。

—わかりました。最後に、先生から学会開催に向けてのメッセージをお願いします。

鴻井 学会発表とかしこまらず、気軽に日々の臨床経験を多くの人に聞いてもらう経験は、自分の臨床力を上げるきっかけとなると思います。また、全国区の講師による講演会と、おいしいご飯を食べられるランチセミナーも企画しています。新しい学会を、皆で盛り上げていきましょう！！



(写真右側より) 実行委員スタッフ：伊藤淳子 椎名えりか 古田崇浩 鴻井建三 山岸誠 佐野邦典(横浜市立大学附属市民総合医療センター)

理事会 報告

平成23年度 第3回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日時：平成23年9月15日(木) 19:00～22:30 場所：神奈川県作業療法士会事務所

出席理事：佐藤、浅井、奥原、木村、小峰、作田、机、中西、原、福留、三浦、澤口

委任理事：渡邊、錠内、鈴木、富山、野々垣 出席監事：清宮、長谷川

その他：鴻井（第1回神奈川県臨床作業療法大会大会長）、名古屋・中尾・金山（事務局書記）、松本（広報部ニュース班）

●第1回神奈川県臨床作業療法大会（鴻井建三大会長）

- ・コンセプト：症例報告を中心とした「新しい学会」
- ・日時：H24/4/15 会場：横浜市内（調整中）
- ・プログラム内容：一般演題（症例報告10～15題）・奨励研究発表、ランチョンセミナー（協賛社提供）、講演、県士会総会
- ・本日の議題：演題募集方法の確認や全体プログラムの流れ（総会は大後に行うものとする）を確認する。

●財務部（佐藤副会長代読）

- ・平成23年度年会費振込用紙発送
8月末日に年会費納入を確認できなかった会員に対し、コンビニ決済振込用紙を郵便再送した（454通）。
- ・平成23年度上半期監査 10月中旬以降に実施する。

●学術部（福留理事）

- ・講習会を実施：①7/24分野別（精神）「地域生活を支えるACTの実践」参加者21名、②7/30生涯教育講座（職場管理者養成講座）「臨床でのリスク管理」参加者65名。
- ・講習会予定：①9/17 分野別（身障）「高次脳機能障害の基礎」講師：早川裕子（横浜市立脳血管医療センター）、11/12 分野別（身障）「上肢機能の基礎から応用」講師：鴻井建三（横浜市立大学附属市民総合医療センター）、②11/19 分野別（精神）「認知症について」講師：佐藤良江（曽我病院）
- ・学術誌「神奈川作業療法研究」：テーマを『教育』とし、卒前教育と卒後教育の2題を依頼予定。その他論文については5題の予定。投稿論文募集と編集員が4月神奈川県学会発表の抄録よりいくつか推薦していく。
- ・研究助成：以下2題の申請があった。
①『身体障害作業療法における実態調査』：研究代表者：友利幸之助（神奈川県立大学）→書類審査と合議審査のもと承認
②『重症心身障害児施設の入所者に対する作業療法の介入に関する研究』：研究代表者：杉山いずみ（小さき花の園）→研究・実践の独創性・新規性において、研究者が同ような発表をしていた為ヒアリングを実施、現在再提出を依頼中。
- ・部員承認：片岡直人（新戸塚病院）⇒承認

●教育部（奥原理事）

- ・研修会を実施：9/3・4「第1回現職者共通研修（6テーマ）」参加者 延べ302名。講師：奥原孝幸（昭和大学）、机里恵（横浜リハビリテーション専門学校）、錠内広之（日本鋼管病院）、長雄眞一郎（県立保健福祉大学）、長谷龍太郎（県立保健福祉大学）、鈴木孝治（国際医療福祉大学小田原保健福祉学部）
- ・研修会予定：11/23「事例報告登録制度（OT協会事業）に関する研修会」講師：石川隆志（OT協会学術部学術委員会委員長・秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻准教授）
*午後からは同会場にて第2回現職者共通研修を行う予定

●広報部（小峰理事）

- ・対外広報班活動：7/22・23 YOTEC（福祉機器展）への出展、OT協作業療法推進活動パイロット事業（当会地域リハ部が事業主体）への広報協力
- ・今後の活動予定：9/25 OTフォーラム（OT協会事業）：日石横浜ホール：ブース出展への協力、対象者ごとにOT啓発活動を実施予定→高校生（予備校へのOTパンフレット送付）、一般市民（ラジオ出演：平成24年1月末予定）、関連職種（他団体への学会参加・ブース出展）、また啓発ツールの作成を行う（県士会パンフレットの改訂（10月以降始動予定）
- ・医療専門職連合会広報部会への参加：ニュース原稿作成を担当
- ・神奈川県言語聴覚士会（仮称）設立準備への協力依頼
県士会会員が所属する施設にはSTがいると判断され、県士会ネットワークを利用し県内STに呼び掛けたいとの旨→三役とも相談。県士会ニュース151号に県内STに向けたチラシ

を封入する予定。

- ・一社より広告依頼⇒賛助会員（団体）にて掲載の方向とする。
部員承認：佐藤準（さがみりハビリテーション病院）⇒承認

●福利部（佐藤副会長代読）

- ・9/3 新入会員オリエンテーション&歓迎会報告
参加者42名（新入会員28名・理事8名・福利部6名）
- ・今後の予定：11/18「職場見学会（ふれあい平塚ホスピタル）」講師：村中準一郎（ふれあい平塚ホスピタル）定員20名

●地域リハビリテーション部（木村理事）

- ・研修会を実施：8/20・21「第2回訪問リハビリテーション実務者研修会」参加者81名（OT31名、PT50名、ST3名）
- ・研修会開催予定：①9/18「OT・PSW合同研修会（第7回地域リハ勉強会）」参加者予定：OT18名、②H23/2/5「第1回訪問リハビリテーションスキルアップ研修会（仮称）」
- ・OT協会OT推進活動パイロット事業「神奈川県内におけるALS者のコミュニケーション支援の普及活動」：OT協会機関誌「作業療法」への掲載依頼（12月号）、10/7 HCRでのセミナー発表、来年度は年1回の講習会を県士会事業として開催する方向で調整中。
- ・訪問リハ事業所アンケート経過報告：回収率が低い（30施設）。ウェブサイトから施設情報掲載の申し込みができるようにウェブサイト管理委員会に依頼→すでに掲載済み
- ・認知症作業療法実際調査（アンケート調査）スケジュール：9～10月中全施設にアンケートを配布、11月末日データ解析、翌年1月に結果をニュースに掲載。これからの活動に反映する。
- ・特別支援学校を中心としたタウンミーティングの有効性の調査：
①12/3 13時～16時、②H24/3/10 13時～16時、養護学校のOTの状況を報告、地域連携に今後必要な取り組みなどをディスカッションする。会場：相模中央支援学校（緑風園跡地）

●福祉用具委員会（机理事）

- ・講習会開催予定：①12/4・1/8・2/5（3日間）OT・OTスキルアップ研修
- ②11/26「車イスシーティング」講師：木之瀬隆（日本医療科学大学保健医療学部）、亀ヶ谷忠彦（群馬大学医学部保健学科）、③H24/1/8「自助具講習会」
- ・HCR：ブース運営に関して県士会会員に別刷りにて協力を依頼した結果、現在11名の申し出あり。また千葉県士会（1名）にも依頼をし、ブース運営の協力を得ている。千葉県士会は次年度の運営協力が出るよう前向きに検討中。セミナーは「ALS者のコミュニケーション障害への支援体制整備」木村氏（神奈川県作業療法士会）と「OT協会のIT機器レンタルの取り組み」田中氏（東京都作業療法士会）を実施する予定。一般向けブースは「作業療法士は対象とする方の道具と適合を図る」をテーマに「意志伝達装置」「環境制御装置」機器をブースに置き、実際に評価から設置にいたる流れを実演とともにOTの役割や関わりのポイントを実演していく。1日4回（15分/1回）の予定。

●社会保障制度対策委員会（三浦理事）

- ・補正予算審議：講習会（案）介護保険制度利用の情報伝達目的
神奈川県理学療法士会（介護保険部）より来年の2月に「平成24年介護報酬改定について」深井氏（神奈川県高齢施設課）や「平成24年介護報酬改定の考え方（仮）」岡野氏（霞ヶ関南病院コミュニケーションケア部副部長・作業療法士）定員198名の講習会を共催依頼あり。経費等の詳細提出を待って期日もあり理事MLにて審議する。

●企画調整委員会（浅井理事）

- ・代議員制導入に向け、意見交換を行う⇒継続審議
※紙面の都合で一部割愛、詳細は県士会Web参照（文責：澤口）

各部からの報告

教育部

○連載！

県士会ウェブサイトから質問ができます！

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」は、生涯教育制度関連の情報を毎月少しづつお伝えしています。

今年度初回の現職者共通研修が9月に開催されました。例年より3割少ない参加者でした。案内が届かない方がいたのではないかと心配しています。協会の生涯教育制度は、作業療法士の職域拡大、認められる専門職、ひいては社会的価値につながるものです。後輩をもつ作業療法士は情報の提供をお願いします。知らない、知らされていないということほど寂しいことはありませんから。

1. 現職者選択研修

：領域別（身体・老年期・精神・発達障害の各障害領域）の生涯教育制度必須基礎研修で、2領域を選択受講します。一領域：90分×4コマの受講が必要です。コマ単位での受講も可能ですが本研修を受講修了したとは認められません。

*今年度は、発達障害領域、精神障害領域を開催します。詳細は今号チラシをご覧ください。

・発達障害領域 2012年2月4日(出)

ウイリング横浜

・精神障害領域 2012年2月5日(日)

ウイリング横浜

2. 第2回現職者共通研修、事例報告登録制度研修会

*今号が研修会当日までに届いた場合まだ間に合います。ぜひお問い合わせください。

11月23日(水・祝) ウイリング横浜

AM：事例報告登録制度研修会

PM：第2回現職者共通研修（「エビデンスと作業療法実践」、「職業倫理」）

*事例報告登録制度研修会と現職者共通研修とは別の研修会となります。

*詳細は前号県士会ニュース、県士会ウェブサイトをご参照ください。

3. 先月号で現職者共通研修の「事例検討」と「事例報告」

をご案内しました。ぜひ申し込みを！

生涯教育制度に関して何でもご連絡ください。県士会ウェブサイトからもご質問ができます。

教育部 奥原孝幸（昭和大学）

045-985-6500（代）、kyoiku@kana-ot.jp

ウェブサイト管理委員会

○会員必読掲示板：左上の「さっ」

※「さっ」をとばして読んでください

ハマ子：よこ太ー、お昼行こうよ。今日は何にしようか？

よこ太：ハンバーさっガーカスバゲさっティカナ

ハマ子：ん？また変な遊びを思いついたのか？

よこ太：ハマコニさっホメテモさっラエテウさっレシヨ

ハマ子：あんたのことだいたいわかるようになってきたけど、今日のこれはわかんないわー

よこ太：ケンシカさっサイトノホーさっム（トップ）ペーさっジフロントベさっジノヒダリウさっエニアルアノさっナガレル

ハマ子：（_-）…あわかった。わかってしまった自分がちょっと悲しい…

よこ太：ハマコ？ナさっニガソナさっニカナシヨさっノ

ハマ子：いい加減にしないと読者から見放されるよ。

よこ太：マイカイネさっタガタイヘさっナンダヨさっ

ハマ子：はいはい。で、何を伝えたいの？

よこ太：ケンシカさっサイトノホーさっム（トップ）ペーさっジフロントベさっジノヒダリウさっエニアルアノさっナガレル
ケイさっジバンハカイさっインヒツドクさっノシュンナジさっウホウガナさっガレテマス！！

ハマ子：あんたもしつこいね…これじゃ伝わらないよ。

よこ太：「サッ」ヲトバさっシテヨムトさっワカルデシヨ？

（文責：ウェブサイト管理委員会 作田・大澤）

平成23年9月アクセスランキング

1位 講習会・研修会 15841件

2位 作業療法Tips & PDF 13794件

3位 求人情報掲載板 7964件

4位 必見！OTのすご技・アイデア集 6690件

5位 再学習☆応援講座 3707件

平成23年9月県士会ブログランキング

1位 ウェブ管的知恵袋 595件

2位 ALS支援ブログ@KAOT 244件

3位 KAOT社会保障制度委員会 109件

更新件数：95件 訪問者延べ数：13230人

Kanaからの手紙発行回数：27回

Twitter (ID:kaotwebkan)：フォロー116名

学術部

○研究助成事業 研究課題内定のお知らせ

①研究課題名：「身体障害作業療法における実態調査」

研究代表者：友利 幸之助（神奈川県立保健福祉大学）

研究費用：200,000円

研究期間：平成23年10月1日から平成24年12月1日まで

②研究課題名：「重度心身障害児施設の入所者に対する作業療法の介入に関する研究」

研究代表者：杉山 いずみ（小さき花の園）

研究費用：200,000円

研究期間：平成23年10月1日から平成25年3月31日まで



研修会

第35回日本リハビリテーション工学協会 車いすSIG講習会 in 高知

日程：2012年1月28日(土)～29日(日)

主催：日本リハビリテーション工学協会 車いすSIG

共催：一般社団法人日本車いすシーティング協会

会場：高知県立ふくし交流プラザ

〒780-8065 高知市朝倉戊375-1

<http://www.fukushi-plaza.jp/index.html>

定員：120名（先着順）

参加費：12,000円・14,000円・16,000円・20,000円

（加盟団体等により異なります）

内容：詳細は11月中旬頃HPに掲載予定です

車いすの基礎

①生活と車いす

②身体寸法計測と車いす寸法

③車いす基本機能と構造との関係

④車いすクッションの基礎と選択

⑤電動車いすの種類と活用のすすめ

⑥高齢者・片まひ者の車いす適合の考え方と工夫

⑦アクティブ・バランス・シーティングの考え方

※社団法人日本作業療法士協会「生涯教育制度」基礎ポイン

ト対象研修会（予定）

申込締切：2011年12月20日(火)

車いすSIG講習会事務局

横浜市リハビリテーション事業団 事務局 経営部

（横浜市総合リハビリテーションセンター 研究開発課）内

担当 深野栄子

TEL.045-473-0666 FAX.045-473-0836

<http://www.wheelchair-sig.jp>



研究会

若手療法士のための動作分析と臨床推論 —基礎編—

主催 療法士.com
 日時 2012年1月29日(日)
 10時00分～16時30分(9時30分受付開始)
 場所 かながわ労働プラザ ホールA (JR線 石川町駅 徒歩3分)
 内容 ●内容
 動作分析は、動作のメカニズムを理解して、そのメカニズムのどれが欠落しているのかを推論を立てながら行わなくてはなりません。
 単に動作のシーケンスを記述するだけでは、問題点の抽出はできないのです。
 本セミナーでは、基本動作のメカニズムを解説し、臨床推論を形成するための基礎を学習して頂きたいと考えています。
 ●講師
 石井 慎一郎 先生(神奈川県立保健福祉大学 准教授)
 理学療法士・作業療法士など(タイトルは若手療法士となっておりますが、受講にあたり経験年数の制限等はございません)、他にもリハビリに関わる方
 参加費 1万円(事前振込み)
 定員 100名(先着順)
 申込み方法 療法士.comにて受付中
 担当者:療法士.com編集部 山田
http://ryouhouji.com/modules/s……?sm_id=787

問い合わせ

療法士.com編集部 担当:山田
 info (@) ryouhouji.com



研究会

第12回北里作業療法学会学術集会

現在(いま)、チーム医療に求められるものとは?

～医療従事者の絆～

主催 北里作業療法学会
 日時 平成23年12月10日(土) 13:30～16:30 (13:00～受付開始) 予定
 場所 北里大学医療衛生学部 A1号館1教室
 相模大野駅よりバス「北里大学病院前」下車(乗車時間:約20分)
 内容 13:00～受付開始
 13:30～総会
 14:00～シンポジウム「高次脳機能障害を抱える方への支援～病院から地域に繋ぐ社会復帰の道～」
 15:30～演題発表
 16:15～閉会式
 参加費 北里OT会員1500円、非会員2000円、学生(北里OT会員1000円)、学生500円
 申込み方法 下記メールアドレスまで、件名「北里学術集会参加申し込み」
 1. 氏名(卒業生は〇〇期生の記入をお願いします)
 2. 所属
 3. 職種
 を明記の上、お申し込みください。
 申込み締切 定員になり次第、締め切りとさせていただきますのでお早めにお申し込み下さい。
 生涯教育ポイント OT協会生涯教育制度・基礎コース1ポイント

問い合わせ

事務局:担当 長谷川俊

メールアドレス: clownfish@basil.



求人

作業療法士 募集

募集人員: 若干名
 就労期間: 即日～平成24年3月31日
 応募資格: 作業療法士免許を有する方
 待遇: 非常勤職員としての雇用です
 給与: 本市規定による 1864円/時給
 手当: 交通費相当分支給
 勤務時間: 8時30分～17時15分
 ※ 頻度・時間等は相談に応じます
 休日: 4週8休制(土曜・日曜勤務有り)
 応募方法: 電話連絡の上、面接をいたします。
 履歴書・免許証の写しをご持参ください。
 ※ まずはお気軽にお問い合わせ下さい

問い合わせ先

横浜市立脳血管医療センター

〒235-0012 横浜市磯子区滝頭1-2-1

TEL 045-753-2791(直通) FAX 045-753-2905

リハビリテーション部 遠藤まで

Eメール: by-ysbckanrika@city.yokohama.jp

<http://www.city.yokohama.jp/me/byouin/nou/>

求人

作業療法士 募集

募集人員: 3名
 施設概要: 515床。脳血管リハ(I) 運動器リハ(I) 呼吸器リハ(I)
 就労期間: 応相談
 応募資格: 作業療法士免許を有する方
 待遇: 給与・手当 当院規定による
 勤務時間: 8:30～17:30
 休日: 年間日数108日(休日出勤あり)
 年次有給休暇、特別休暇
 応募方法: 電話連絡の上履歴書を持参又は
 下記宛てに郵送してください
 ※主に急性期・回復期の脳血管疾患、また神経難病への自助具作成を含めた訓練を行っています。まずはお気軽に見学にいらしてください。

医療法人社団明芳会

横浜旭中央総合病院

〒241-0801 横浜市旭区若葉台4-20-1

TEL 045-921-6926(直通)

リハビリテーションセンター 池田まで

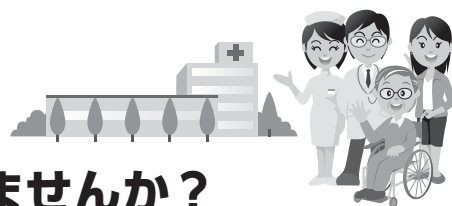
Eメール: jinji@asahi-hp.jp

<http://www.ims.gr.jp/asahi-hp/>

謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます。

このたびの東日本大震災により、被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。皆さま方には何卒お身体にご留意いただき、一日も早い復興を、心よりお祈り申し上げます。

病院や施設等のイベント・お祭り・研修会などの
出しものにいかがですか？場がにぎわいますよ



試してなっとく！福祉車両に乗ってみませんか？ 出張展示会「LVわくわく体験会」を受付中！

患者さんや
ご利用者のご家族から
福祉車両のことを
相談されたけど…



日産の福祉車両「LV(ライフケアビークル)」を
皆様が開催されるイベント会場にお持ちします。
まずは、お気軽にお電話・Eメールを！

手間は
かかりません

もちろん
無料



※写真は、特別支援学校での出張展示会の模様です。



やっぱり、
実際に乗って見ないと
分からないわよね

- なかなか見るチャンスのない福祉車両を体験できる、またとない機会です。
- 福祉車両専門スタッフが、いろいろな質問・相談にお応えします。



いろんな種類の
福祉車両が
あるのね！



●展示車の一例●



チェアキャブ（車いす仕様車）



アンシャンテ（昇降シート付車）

お気軽に
お問い合わせ
ください



●お申込方法
面倒な手続きはございません！
ご希望の日程と場所を
ぜひ、ご相談ください！

●お問い合わせ先

(株)オーテックジャパン LV商品・販促企画部 出張展示会「LVわくわく体験隊」事務局

☎0467-87-8653

※受付時間 9:00～18:00（土・日・祝日除く）

✉LV-sodan@autech.co.jp

※お問い合わせいただいたから返信させていただくまで、2～3日いただく場合がございます。

出張展示会の模様は、ご要望に応じて
WEB「あんしゃんぼ」でもレポートします。
<http://www.enchanpo.jp/>



SHIFT_the way you move



連載

青年海外協力隊体験記

～大草原の小さな私～

第5回 モンゴルでの活動開始

青年海外協力隊 平成23年度2次隊 堤由貴子



●執筆者プロフィール

大学卒業後一旦就職するも、退職。その後、作業療法士資格を取得し、都内の病院へ3年間勤務する。平成23年3月退職し、7月から約2カ月の訓練を経て、9月より協力隊員としてモンゴルに赴任。モンゴル国立外傷病院にて活動予定。

やっと、モンゴルに来ました！1年半前の春に受験し、その後合格してからモンゴルへの道は思いの外遠かった。しかし、今、モンゴルの地を踏んでいる。やっとスタートに立てた気持ちでいる。

モンゴルでは国立外傷病院というところで主に活動することになっている。しかし、現在は病院での活動はまだ始まっておらず、モンゴルに「慣れる」時期として日々を過ごしている。通常、着任後1カ月ほどは、午前中に現地の語学学校に通い、午後は各協力隊員の所属する省庁や配属先に表敬訪問したり、その国でJICAが関わっているプロジェクトの視察などを行う。

先日は、「ゲル地区生活環境改善計画」事業（日本政府の資金供与）というプロジェクトを視察した。「ゲル」とは、テントのようなモンゴル流住居のことである。近年、モンゴルでは深刻な雪害や移住の自由化により、草原での牧畜生活を捨てて首都に移住する人々が急増し、首都ウランバートルの人口は急激に増加したという。これらの移住者は、政府にあてがわれた都市周辺地域の敷地を柵で囲い、そこにゲルや簡易な家を建てて住んでおり、このような地域は「ゲル地区」とよばれている。ウランバートルでは中心部の高層住宅群を取り囲むように、この「ゲル地区」が広がっている。ゲル地区では、上下水、道路、学校などの基礎インフラの未整備が最も深刻な問題となっており、JICAは、このゲル地区のインフラやコミュニティーの整備を国連関連団体（UN Habitat）と協力して行っている。

例えば、写真の斜面にある道は以前は十分舗装されておらず、階段も無かった。特に冬場は滑り易いため住民のけがが多く、骨折することもあったという。モンゴルでは骨折の整復不良やリハビリが不十分であることから後遺症が残りやすいという。骨折、外傷の治療技術を向上させることも重要であり、今回の私の活動ではその点が求められている。しかし、

予防として基本的な環境を整備することも欠かせない。様々な活動が関連しあって成果を高めていくことができる。

活動を円滑にするためにも、少しずつモンゴルのことを知っていくことが大切だ。モンゴルにはたくさんの迷信や慣習が残っている。最近、他の協力隊員から聞いた慣習をひとつ。「目にゴミが入ってしまった人が、目を指で大きく開いて、何とも言えない声を出していた。どうやら目から息を出そうとしていたようだった。成人でもそうするのかはわからないが、少なくとも15歳くらいの子はやっていた」とのこと。かわいいなあ、思わずほほえんでしまうエピソードだった。



ゲル地区の道

以前は未舗装で、階段もなかった。子供でもその道をタンクに入れた水を引いて登らなければならなかった。

青年海外協力隊

JICAボランティア事業は日本政府のODA予算により、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業。開発途上国からの要請に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣する。その主な目的は、（1）開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与、（2）友好親善・相互理解の深化、（3）ボランティア経験の社会還元である。（JICAホームページより抜粋）

UN Habitat

世界各地で急速な都市化が進行している今日、発展途上国の都市に暮らす人々の居住問題はますます深刻化している。国連ハビタット（国際連合人間居住計画）は、都市化や居住に関する様々な問題に取り組む国連機関。（国連ハビタットホームページより抜粋）

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース < 152号 > 2011年11月発行（年6回発行）

発行責任者 渡邊慎一

編集責任者 小峰一宏

編集担当 松本政悦・大宮幸恵・菊地美帆・千葉友浩・矢野竜也・堤由貴子・本間嗣宗

印刷 発送 第一資料印刷株式会社

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル301号 TEL/FAX: 045-663-5997
月火水木金 10:00～16:00 メールアドレス: jim@kana-ot.jp一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.com/>

作業療法 神奈川

検索